

能

- ア 能は、猿楽（中国から伝わった滑稽な歌舞や物まね中心の芸能）と
 イ 田楽（豊作祈願の歌舞）とが合流し、演劇的要素も加わって、
 ウ 室町時代に大成した。このころには、各地の神社や寺院の保護を受けて、
 エ 専門的な芸能者集団が座を結んで活躍した。
 オ ○世阿弥の役割
 カ 父観阿弥の芸を受け継いだ世阿弥元清（一三六三〜四四三？）は他流
 キ の芸風をも取り入れ格調の高い能を完成した。
 ク また、『風姿花伝』などの能楽論を残している。
 ○演能のしくみ
 ケ 能は、下図に示したとおりの構造の能舞台で、①役者（主役のシテ・
 コ 脇役のワキ、その他）、②地謡（情景やシテの心情などを謡う役）、
 サ ③囃子方（笛、小鼓、大鼓、太鼓を奏して舞をはやす役）によって演じ
 られる。
 ○言有名な能作品
 井筒：井戸の地上の部分につける、
 石や木などで作った團い
 シ 井筒（世阿弥作、『伊勢物語』 二三段、その他の段を脚色）
 ス 旅僧（ワキ）が在原寺に詣でて業平夫妻を弔っていると、
 セ 里の女（前シテ）が現れる。僧が女の素性を問うと、女は『伊勢物語』
 ソ の歌に関する在原業平と紀有常の娘との純愛について語り、自分がその
 タ 娘だと名のつて井筒の陰に隠れる。眠った僧の夢に業平の形見の衣を着
 チ た有常の娘（後シテ）が現れ、業平思慕の舞を舞う。夜が明けると、僧
 の夢は覚める。

ネ

こおもて
小面



若い女性

ヌ

はんいや
般若



女性の怨霊

ニ

おきな
翁



老人

- ナ 急…速いテンポで終わる完結部。
 ト 破…技巧的で、変化に富む展開部。
 テ 序…ゆるやかな導入部。
 ツ 序破急の流れ